

令和 7 年度 入 学 試 験 問 題

地 理 歴 史

100 点満点

《配点は、一般選抜学生募集要項に記載のとおり。》

地 理 探 究 (1～12 ページ) 世界史探究 (13～28 ページ)
日本史探究 (29～43 ページ)

(注 意)

1. 問題冊子および解答冊子は監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は表紙のほかに 43 ページである。
3. 問題は地理探究 5 題，世界史探究 4 題，日本史探究 4 題である。
4. 試験開始後，選択した科目の解答冊子の表紙所定欄に学部名・受験番号・氏名をはっきり記入すること。表紙には，これら以外のことを書いてはならない。
5. 総合人間学部「文系」・文学部・教育学部「文系」・法学部・経済学部「文系」受験者は，地理探究・世界史探究・日本史探究のうちから 1 科目選択すること。
6. 解答は，すべて解答冊子の指定された箇所に記入すること。
7. 解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがある。
8. 解答冊子は，どのページも切り離してはならない。
9. 問題冊子は持ち帰ってもよいが，選択した科目の解答冊子は持ち帰ってはならない。

地 理 探 究

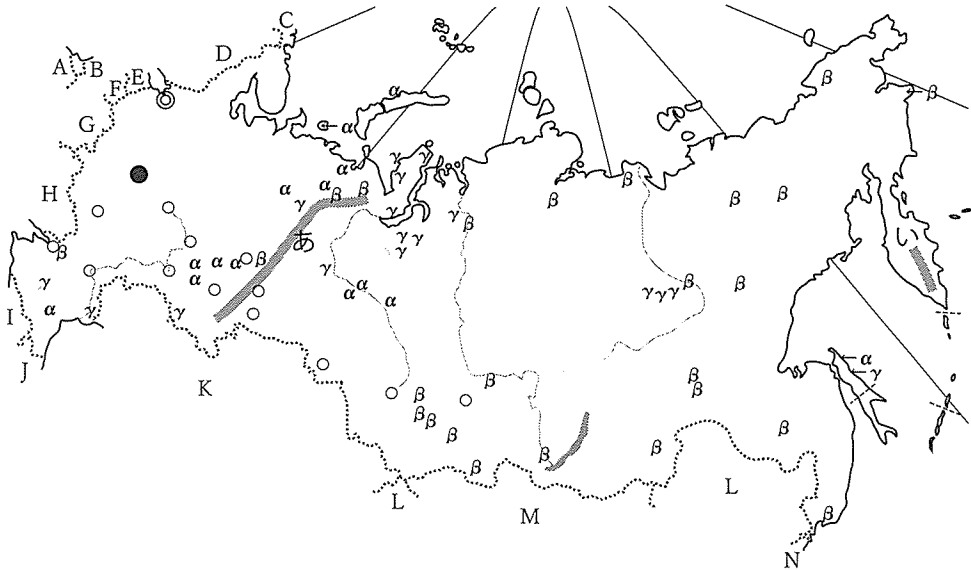
(5 問題 100 点)

I

地理探究問題

(20 点)

ロシアに関する下の地図を見て、右ページの間(1)～(5)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。字数制限のある問については、句読点も字数に含めよ。



資料：Атлас России (2009) など

注：図中の実線は海岸線を、点線は内陸の国境線を示す。海岸には「海」と呼称される水域も含む。点線の分岐は、内陸で隣接する国 A～N の境界の一部である。内陸の細かい線は主要な河川を示す。破線は日本との間で国境にかかわる条約が結ばれていない地域を示す。

問

- (1) 図中の海上に図示した経線は、一定の経度ごとに引かれている。何度の間隔で引かれているか、10の倍数で答えよ。
- (2) 図中に示したあといの帯状の地帯には、対照的な特徴をもつ大地形がある。両者の地形を比較してみたとき、あの特徴とその成因を解答欄①に、いの特徴とその成因を解答欄②に、それぞれ答えよ。
- (3) 図中の●は人口が1200万人以上の都市を、◎は500万人以上の都市を、○は100万人以上の都市を示す(2021年)。ロシアにおけるこれらの都市の空間的な分布にはどのような特徴があるか、気候との関わりに触れつつ、解答欄①に述べよ。また、◎の都市名を解答欄②に答えよ。一方、○の都市が分布する一帯には、都市人口を支える食糧の生産に適した土壌がみられる。その土壌を意味する現地での名称を解答欄③に答えよ。
- (4) 図中の $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma$ は3種類のエネルギー資源の主要な産地を示す。この3種類のうち、ロシア国内でのエネルギー消費量(2022年、熱量換算)がもっとも少ないものを選び、該当する記号を解答欄①に、資源の名称を解答欄②に、それぞれ答えよ。また、ロシアでは α と γ の陸路での輸送が盛んであるが、その中心となる輸送手段の名称ならびに長所と短所について、解答欄③に50字以内で述べよ。
- (5) ロシアではさまざまな言語が話されているが、その多くはロシアに隣接する地域で用いられている言語と同じ系統に属している。そうした言語のうち、ロシア語と同系統(語派)の言語を主要言語とする隣国をA~Nから3つ選び、解答欄①に記号で答えよ。また、この言語の系統(語派)を何と呼ぶか、解答欄②に答えよ。

II

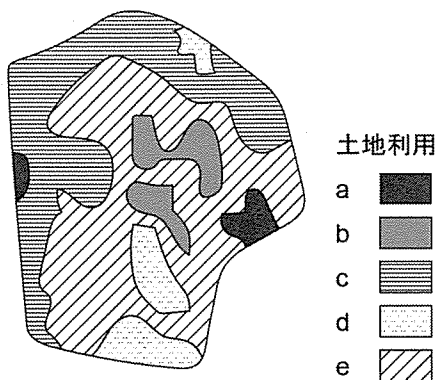
地理探究問題

(20 点)

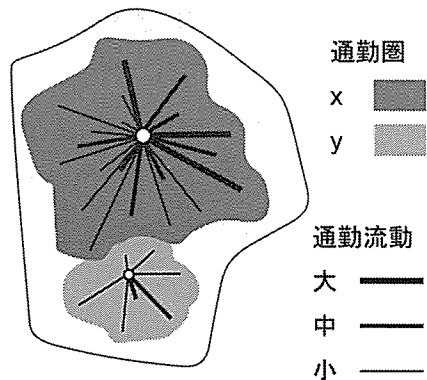
地域区分に関する以下の文を読み、下の地図を見て、右ページの間(1)～(6)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。字数制限のある問については、句読点も字数に含めよ。

現代世界の諸地域は、様々な基準によって区分されている。アジアやアフリカ、北アメリカといった形式的な区分もあれば、地形や気候、植生などの自然環境^Aによる区分、言語や宗教などの文化的側面や経済水準^Bによる区分もある。また、世界の諸地域は国際的な人口移動や観光、貿易・投資などの人・物・資本・情報の流れによって互いに結び付いており、それらを促進するための様々な協定^Cや枠組み^Dも存在する。域内の経済連携を進める国家群の例としては、ヨーロッパ連合(EU)や東南アジア諸国連合(ASEAN)が挙げられる。

地域区分は、世界だけでなく国内や都市といったより狭い範囲においても適用される。その区分は様々な指標をもとに行われるが、大別すると地図 P^Eおよび地図 Q^Fに例示した 2 種類の方法がある。近年は地理情報システム(GIS)の普及により、様々な地域区分やそれに関連する統計データを地図に表示することも容易になった。



地図 P



地図 Q

問

- (1) 下線部 A について、自然環境による地域区分の境界は必ずしも国境線と一致しない。それは自然的国境以外にどのような種類の国境があるためか、答えよ。
- (2) 下線部 B に関連して、世界全体を経済水準に基づいて地域区分する際には、主に国が単位地域となる。その理由を、解答欄①に 20 字以内で述べよ。また、そのことによって見えづらくなる地域差とはどのようなものか、解答欄②に 20 字以内で述べよ。
- (3) 下線部 C に関連して、国家間の連携を促進する自由貿易協定(FTA)と経済連携協定(EPA)があるが、その違いを 50 字以内で述べよ。
- (4) 下線部 D に関連して、下の表の A～O は、アメリカ、中国、日本、メキシコ、ラオスのいずれかであり、それぞれの国における東南アジア諸国連合(ASEAN)への加盟、地域的な包括的経済連携(RCEP)協定への署名、環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定(CPTPP, TPP 11)への署名の有無を示している。このうち、RCEP に該当する経済連携の枠組みは、表中の X、Y、Z のいずれか、解答欄①に答えよ。また、I に該当する国名を解答欄②に答えよ。

	ベトナム	A	I	U	E	O
X	有	有	有	有	無	無
Y	有	有	無	無	無	無
Z	有	無	有	無	有	無

- (5) 下線部 E に関連して、地図 P に示された地域区分法の名称を解答欄①に答え、その特徴を解答欄②に 20 字以内で述べよ。また、地図 Q のように線や矢印を用いて地域の結び付きを表現した主題図を何というか、解答欄③に答えよ。
- (6) 下線部 F に関連して、アメリカの GPS やロシアの GLONASS など、人工衛星からの電波を受信して位置情報を取得する仕組みを何というか、答えよ。

Ⅲ 地理探究問題

(20 点)

次の GDP と輸出に関する表(2021 年)を見て、問(1)～(6)に答えよ。なお、A～F 国はアメリカ、ケニア、サウジアラビア、シンガポール、中国、日本のいずれかである。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。字数制限のある問については、句読点も字数に含めよ。

国	A	B	C	D	E	F
財・サービス 輸出額の GDP に対す る比	11 %	20 %	18 %	11 %	33 %	184 %
輸出先第 1 位	カナダ	A	B	ウガンダ	アラブ首長 国連邦	B
輸出先第 2 位	メキシコ	香港	A	オランダ	B	香港
輸出先第 3 位	B	C	韓国	A	インド	マレーシア
最大輸出品目	石油製品	通信機器	乗用車	X	原油	集積回路

資料：World Bank Database (<https://wits.worldbank.org/>) など

問

- (1) 1970 年代後半に、A 国と C 国の間の貿易において生じた問題を何というか、解答欄①に答えよ。また、その問題に対処するため、A 国では C 国の企業によるどのような生産が見られるようになったか、解答欄②に答えよ。
- (2) 2000 年代以降、B 国や発展途上国からの輸出が増加したのは、産業および貿易の構造が国際的にどのように変化したからか、50 字以内で述べよ。
- (3) D 国の首都と港湾都市などを結ぶ鉄道は、A～F 国のなかのある国が推進する政策の一環として 2017 年に建設された。その国はいずれか、解答欄①に記号で答えよ。また、解答欄②にその政策名を答えよ。

- (4) 表中の X にあてはまる輸出品目を解答欄①に答えよ。D 国において、主要な輸出品目が X になっていることには、どのような歴史的背景が影響しているか、30 字以内で解答欄②に述べよ。
- (5) E 国では、同国に特徴的な経済構造から脱却するために、どのような政策がとられているか、答えよ。
- (6) F 国にあてはまる国名を解答欄①に答えよ。F 国には、一時的に製品を輸入・保管して別の国・地域へ輸出する機能を持つ港湾がある。このような港湾を何というか、解答欄②に答えよ。また、現代において同様の貿易が大規模に行われている港湾を持つ国名または都市名を A～E からひとつ選び、解答欄③に記号で答えよ。

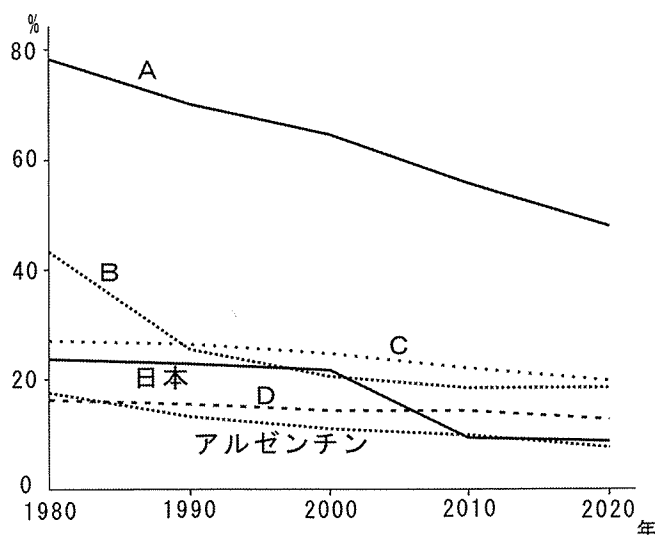
A：アテネ I：パラオ U：モナコ E：ロッテルダム

IV

地理探究問題

(20 点)

農村人口の動向はさまざまな経済や社会の変化と結びついてきた。次のグラフは、アルゼンチン、韓国、ナイジェリア、日本、ニュージーランド、フランスの 6 か国における、農村人口が総人口に占める割合の変化(1980～2020 年)を示したものである。以下の問(1)～(6)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。字数制限のある問については、句読点も字数に含めよ。



資料：FAOSTAT (<https://www.fao.org/faostat>)

問

- (1) アルゼンチンでは、長く続いてきた農牧場の経営のありかたが農村人口の割合を小さくする要因の一つとなっている。この農牧場の経営とは何か、答えよ。
- (2) 日本では、農村人口の減少により引き起こされる社会問題を過疎と呼んできた。人口減少が農村の暮らしに与える影響について、解答欄①に 30 字以内で述べよ。また、過疎に対応する行財政力を持つために、2000 年代に行われた自治体の再編は、農村人口の割合を名目的に低下させたことがグラフに表れている。この再編とは何か、解答欄②に答えよ。

- (3) A 国では、農村人口の割合は徐々に低下しているが、農村の貧困や飢餓はなかなか改善されない。次の表は A 国における主要作物の土地生産性の変化(1980～2020 年)である。この表から読み取ることのできる、農村の貧困や飢餓が改善されない理由について、30 字以内で述べよ。

	1980 年	1990 年	2000 年	2010 年	2020 年
キャッサバ	100	122	101	127	60
トウモロコシ	100	86	99	141	156
米	100	104	76	93	98
モロコシ	100	89	100	128	101
ヤム	100	101	94	123	75

資料：FAOSTAT(<https://www.fao.org/faostat>)

注：数値は 1980 年の各作物の単位面積あたり収穫量を 100 としたもの。

- (4) B 国では 1980 年代に農村人口の割合が急速に低下した。この時期に B 国で生じた経済と人口分布の変化について、30 字以内で述べよ。
- (5) C 国では加盟している国家連合の方針に基づいて、政府は農業に対する補助ではなく、農家へ直接的な支援を行っている。この国家連合の政策の名称を解答欄①に答えよ。また、この支援策は農家が有する農業生産以外の役割を重視しているが、それはどのような役割か、解答欄②に 20 字以内で述べよ。
- (6) D 国とデンマークはともに酪農が盛んな国であるが、生乳の生産量 1000 t あたりのバター生産量(2020 年)は、デンマークが 12.8 t であるのに対して、D 国は 22.1 t である。D 国でバター生産の割合がデンマークより高くなる理由について、30 字以内で述べよ。

V

地理探究問題

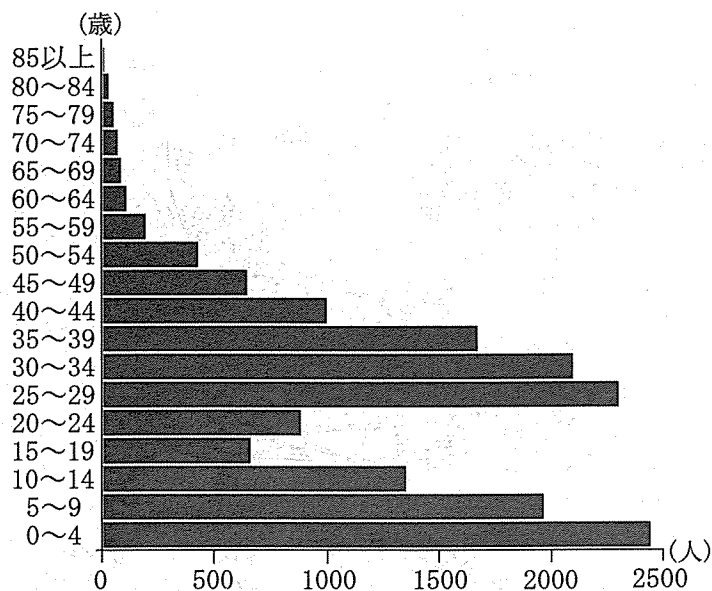
(20 点)

11 ページの図 1 は、1963 年補測調査の 5 万分の 1 地形図(原寸大)である。12 ページの図 2 は、図 1 と同範囲における 1979 年修正の 5 万分の 1 地形図(原寸大)である。これらの地形図をみて、問(1)～(6)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。字数制限のある問については、句読点も字数に含めよ。

問

- (1) 図 1 中の破線で囲まれた集落 A と集落 B は、それぞれどのような地形上に立地したと考えられるか、A については解答欄①に、B については解答欄②に答えよ。
- (2) 図 2 中の D の範囲は、この都市における CBD(中心業務地区)だが、そのことは地形図上のどのような情報から判断できるか、解答欄①に述べよ。また、この範囲は江戸時代にはどのような場所であったか、解答欄②に答えよ。
- (3) 図 1 中の「おおいた」駅から北に伸び西へ曲がる軌道は、図 2 の時点では変化している。こうした変化が生じた一因には住民のライフスタイルの変化があるが、それは何と呼ばれるか、答えよ。
- (4) 図 2 中の E の「工業団地」は既成市街地における都市問題の軽減等のために 1963 年から建設され、多様な業種の中小工場が入居した。この都市問題とはどのようなことか、40 字以内で述べよ。
- (5) この都市は、高度経済成長期の国土計画(全国総合開発計画)で開発拠点に指定されたことを機に大きく変化し、図 2 中の C 付近に製鉄所および石油化学コンビナートの建設が進んだ。こうしたコンビナートが C 付近に立地する利点は何か、40 字以内で述べよ。

- (6) 図2中のC付近の製鉄所の操業にあたり、図2中のF付近で社宅を含む住宅地が建設された。図1と見比べると、F付近ではどのような地形の改変が行われたと考えられるか、解答欄①に述べよ。また、下のグラフは、F付近の住宅地における1980年の年齢別人口構成である。グラフから読み取れる入居者の特性について、解答欄②に40字以内で述べよ。



資料：梶田真(2011)『人文地理』63巻1号

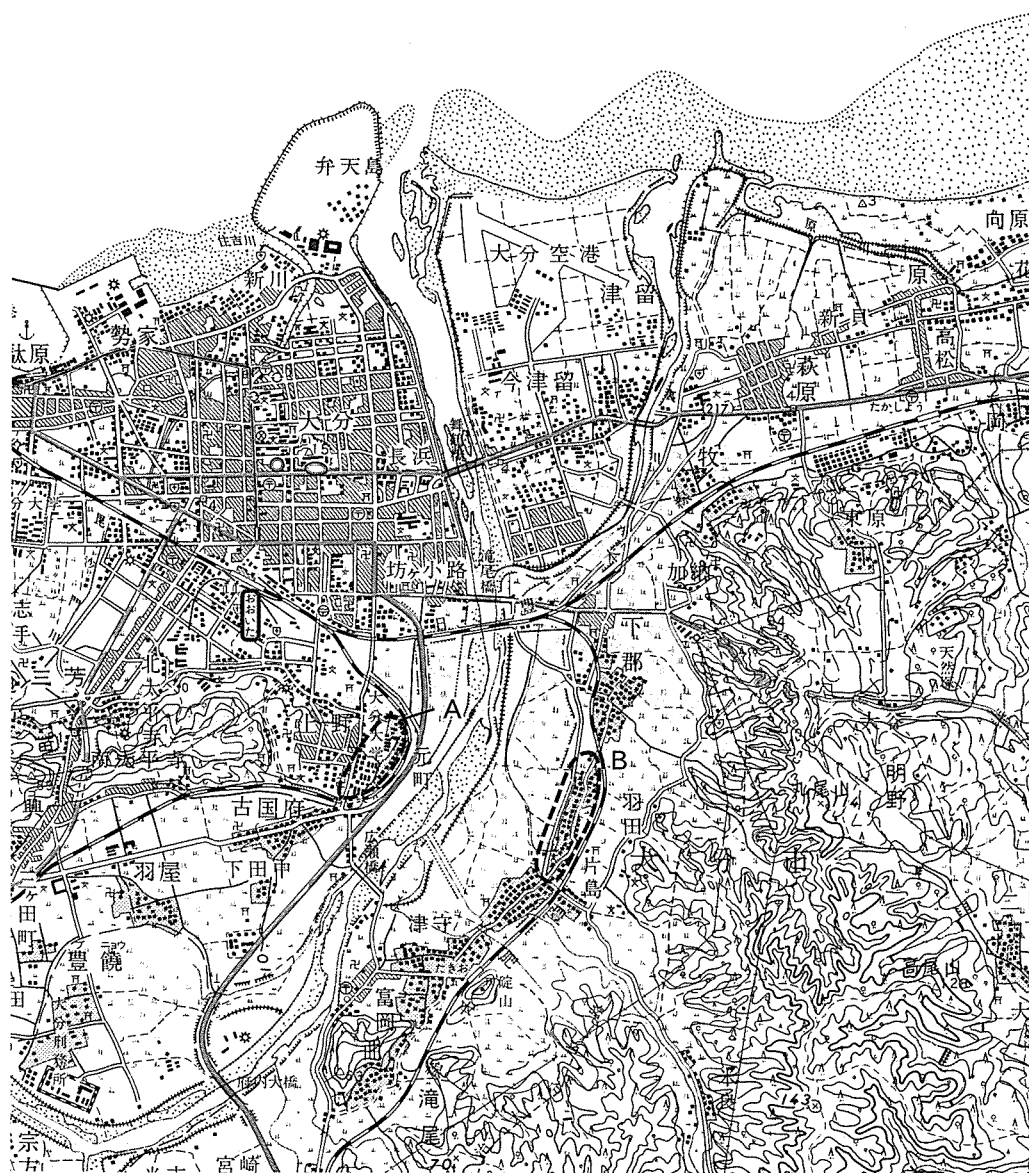


图 1

(出典：国土地理院)



図 2

(出典：国土地理院)

地理探究問題は、このページで終わりである。